



第七十七回 『風の歌を聴け』とウマシカの壁

考
え
マ
カ
シ
カ
ウ
マ
シ
カ

壁にも理由がある。

弦楽器イルカ  ⇔ 友人

目次

第七十七回	『風の歌を聴け』とウマシカの壁～G から Uへ～	1
-------	------------------------------------	---

第七十七回 『風の歌を聴け』とウマシカの壁～G から Uへ～

『デスト』の時に、「時砂」って俺の電波が某監督に受信されたって妄想の話をしたけど、今回の某新作も、春樹自身の過去作の補完に紛れて、俺の過去作までちょっと受信されてて、しめしめ、って無謀な悦に入ってたよ。

しめしめ。

珍しく「あとがき」があったのも含めて、まるで昔から聴いているラジオみたいで、作者と読者が共謀してなじみのモチーフやエピソードを一つずつ吊っていく、ある意味ドラハッパー夢の競演みたいなエモさだった。

作者と読者が互いの蓄積を浄化する、すごく良い供養だった。

そういう意味では『マリオ』の映画もそうだったんだけど、批評家の三文記事とか関係ない。だって『マリオ』だったらやっぱタヌキもネコもなんなら、GBのスーパーボールマリオだって観たいじゃん。ファイアマリオの下位互換とか言うな。

なんなら過去マリオ全部観せてくれって思うし、それが嫌なら『RRR』観ろって俺は思うよ。『マリオ』に足りない面白いトコ全部出てくるから。

確かに『RRR』のヒゲはマリオの上位互換かもしれないけど、シナリオも完璧かもしれないけど、どんなに逆立ちしても絶対『RRR』にマリオは出てこないよ。無敵の肩車したって、虹色のスターは取れないよ。それが取れるのはマリオとルイージだけ。

だから春樹に筋違いのレビューしたい人は、村上龍の新作『ユーチューバー』読めばいい。

たぶん春樹に足りない物が全部書かれてるよ。でもそれは春樹に求めるモンじゃない。

だいたい狭いこの国にさえ作家はごまんといえるのだから、世界的な話題作を書いてとっとと前期高齢者の春樹を抜けよ作家。そしたら他人のフンドシを飯のタネにSNSで騒ぎたいだけの連中は、飛んで火に入るムシ考の如くみんなそっちにいくから。もっとプペレよ作家！ プペルみたいにさ！

たとえビジネスだとしても、春樹の作品内ではむしろ対極として扱われそうな人種が、某新作についてメディアでプペってるのは、グロテスクなコメディだと思う。ウマシかな俺が言うのはなんだけど。

というわけで、今回は新作から俺が勝手に受け取った電波の話をしたい。
『色彩を〜』の時みたいない読解のつもりはないし、間違っても「人気作品をネタに自分のビジネスのために考察」する話なんかじゃなくて、実人生を豊かにする電波を俺は受け取ったから。

ネタバレではないと思うけど、自己責任で。

結論から書くと結局、「小確幸を手に入れる方法」について考えさせられた。春樹が前から言ってる造語だけど。

俺にとっては、そういう話だった。

個人にとって、依存はなんらかの死を伴う行為だ。

一個人が、会社や団体、宗教、アイドル、内面世界、物語、あるいは自殺にさえ依存することで、個人の自由や思考、欲望、お金、外的交流、生きがい、あるいは命そのものを喪失、奪われる可能性がある。

ただし、依存には悪い面だけではなく、良い面もある。

個人が何者かに依存することで、自身の責任を委ね、放棄することができる。不安や迷いから解放される可能性がある。

個人が何らかの犠牲を差し出せば、壁は受け入れてくれるかもしれない。

ときに卵は割れるかもしれないが、殻や中身は多少くらい残るかもしれない。

ただし、一度壁に受け入れられれば、そこから再度個人の自由を取り返すことは、多大な困難を伴うだろう。

一方、個人が、できるだけ何者にも依存しないように生きること、個人の自由を手に入れる代わりに、人は責任という影を背負わなければならない。

億万長者になりたいとか大きな夢ならいざ知らず、他人から見たらあまりにも小さい、相対的に見たら不幸の部類に入るとさえ思えるような幸福であったとしても、一個人が小確幸を手に入れることは容易い選択ではない。

何者かに依存して自分の一部を殺すか。影を背負って自分で責任を取るか。

我々はその二択をどう選択し、どう小確幸を得るのか。

それは読者がそれぞれの境遇や資質から考えることであって、物語の中に解決はない。

他者の物語に拘泥し、崇拜したり批判することもまた、依存である。

小確幸はたぶん、自らの努力で現実を生き抜くことでしか得られないだろう。

だから、他者に与えられた物語にハッピーエンドを求めるよりも、その先のハッピーエンドはあなたの実人生で叶えるしかない。そこまでのヒントなら、物語にも少しはあるかもしれない。

あと春樹の謎として、「なんでモテるのか？」って疑問があって、でも今回は「ちょうどよいモテ具合」だと俺には感じられたよ。ここはネタバレかしらんけど。

とりあえずウマシカとして、小確幸にちょうど良い材料は手元にあるから、ポチポチやっていきたい。

んで、こっからが全然別角度の本題なんだけど。
せっかくだからブンザイのフォーマットでやることにします。

はみださないウマシカさん

第四回BUN1 - GP 優勝ブンザイ（エントリー数1）

どうも、考えるブンザイです。

『風の歌を聴け』について昔から、トンデモ自論を展開してる一部の有名な評論がある気がする。今まで無視してきたんだけど、今回の新作と過去作が地続きだったから、乗り掛かった舟で一回ケジメをつけたい。

はい。

「僕と鼠と彼女は三角関係である」って考察と、「三番目に寝た女の子（直子）は僕の子供を妊娠していた」って評論がある気がするんだけど、結論から言うと根拠に乏しい。

はい。

まず、「三角関係」に関しては、文庫版 70 ページに、以下のセリフがある。

「『ジェイズ・バー』で訊ねてみたの。店の人があなたのお友達に訊ねてくれたわ。背の高いちょっと変わった人よ。モリエールを読んだわ。」

この「背の高いちょっと変わった」「お友達」は鼠と考えるのが自然な流れであり、そうすると、彼女と鼠はそこで初めて接点を持ったと考えられる。また、その後の会話で彼女がお酒を飲むシーンと旅行に関する会話があり、時系列的にそこで子供を諦めたと考えられる。

なのでもし、このセリフの時点で彼女が鼠の子供を妊娠していたとしたら、この会話は不自然なありえない内容だ。彼女が鼠との関係を誤魔化すためのセリフだったと仮定

しても、やはりこうはならない不自然さがある。

また別の可能性として、この「お友達」が鼠ではない別の友人である、とする根拠も本文中に見当たらない。

更に言えば、この三人をカウンター越しに見ていたであろうジェイの会話にも、終盤で辻褄が合わない部分が出てしまう。

はい。

また「直子の妊娠」に関しては、もしそうだとするなら、僕の直子に向けた言葉はあまりにも冷酷だ。

文庫版 98-99 ページに書かれているが、直子が真剣に天の啓示を受けるためと語り、それを天使の羽に例えたことを、僕は「遠くから見るとそれはまるでティッシュ・ペーパーのように見えた」と語っている。

またそれに続いて、直子の自殺を「彼女自身にさえわかっていたのかどうかさえ怪しいものだ、と僕は思う。」と語っている。

もし直子が僕の子を妊娠し、中絶し、自殺したのであれば、その死の一部に僕の責任があることは明白で、だとしたら、上記の突き放し方は冷酷すぎ、異常な描写でさえある。

もちろん、「僕（春樹）は冷酷」という考察も自由だが、少なくとも根拠に乏しく、断言できるような論評ではない。

はい。

今回改めて、ウィキを確認したところ、「時系列を入れ替えたり削除した」「妻につまらないと言われ書き直した」という趣旨の内容が書かれていた。

書き直す前の設定では、もしかしたら「三角関係」などはあったのかもしれないが、あえてそこを修正することで、『風の歌を聴け』は幅のある作品になったと考えられるのではないか。

つまり、「三角関係」や「直子の妊娠」はないほうが、作品として深みが増すということだろう。

それでは次のブンザイ考えるから、あんたとはやっとなんわ。

どうもありがとうございました。

ウマシカなケジメだけど、誤読だと思いながら放置するのは新作の価値さえ下げる気がするから、あえて書きました。今回はこんな感じ。

どうかな？



考えるウマシカ～第七十七回 『風の歌を聴け』とウマシカの壁～

著 弦楽器イルカ

制 作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
